

2025

北鹿の学び舎から①

— 学校紹介・活躍する修了生 —

秋田職業能力開発短期大学の

近況とこれから

秋田職業能力開発短期大学校は、職業能力開発促進法に基づく厚生労働省所管の大学校であり、平成5年に大館市

で開学しました。それ以来、高度なもののづくりを支える人材を輩出し、地域産業とともに歩んでまいりました。しかしながら、もののづくりを取り巻く状況は近年大きく変化しており、社会からの要求の急激な変化や急速な技術の革新に対応できる人材の供給は喫緊の重要課題となつています。そのような状況下でも、当校はものづくり人材の高等教育訓練機関として、引き続き優れた実践技能者を輩出し、地域産業の振興に貢献したいと考えています。

上述の事項に対応するため

には、保有設備や教育訓練内容などを定期的に見直すことが必要になることは言うまでもありません。当校は、実際に産業界で利用されている機器と同等のものを用いて教育を行っているからこそ、優れた技能が身につくと自負しております。この一環で新しく導入したものが炭酸ガスレーザー加工機です。レーザー加工とは、照射されたレーザー光により発生する熱エネルギーによつて材料の切断等を行う加工法です。レーザー光は極めて細く収束されているので、微細な穴あけや複雑な形

秋田職業能力開発短期大学校

校長 中村 雅英

状の切断などが容易にできるという特徴があります。今回は導入した機器は、加工範囲が1250mm×1250mm

になっていてため利用できる範囲も広く、今後様々なことに活用されることが期待されます。極めて優れた技能習得環境を維持するためにも、設備に関しては今後とも継続的に見直しを実施する予定です。

もう一つ挙げられることは、入試方法に関することです。入学者の大半が高校から入学であることは当然のこと

ですが、当校では多様な人々の入学も望んでいます。そのため、従来の入試のほか、社会人自己推薦入試制度、事業主推薦入試制度を導入しております。前者は、社会人を経験した人々を対象とした入試であり（現在は無職でも、社会人経験があるのなら受験資格があります）、後者は企業に籍を置いたまま入学を希望する人を対象とした

入試です。千差万別の経験は、新たな進歩につながる可能性を有しています。様々な人々が当校に関心を持つてくれることを望んでいます。

近年、ここ秋田県において、多くの魅力的な動きが始まってきました。その一つが洋上風力発電であり、地球温暖化対策またはエネルギー自給率向上などがその背景にあります。しかしながら、まだ

洋上風力発電は「理想的な」エネルギー源というには十分なところがあり、それを支える技術力をさらに向上させることが要求されます。このような場合、最後に必要となることはしっかりとした基礎技術に尽きます。今後とも当校では、このような技術を有する実践技能者を育てていきたいと考えています。そして、秋田県、大館市、大館商工会議所、大館北秋商工会、産業界、さらには地域の皆様の要望に耳を傾けて、共に発展していきたいと考えております。これからも、皆様からの御意見および御支援を頂ければ幸いです。



炭酸ガスレーザー加工機



ドアを開けたところ